

# 京都大学出前授業 学びコーディネーターによる出前授業

～ウィルスは生物なのか？～

京都大学が高大接続・高大連携活動の一環として、全国的に展開している学びコーディネーター事業を利用して、11月18日（月）に京都大学大学院 ウィルス・再生医科学研究所の武長 徹先生をお招きして、「ウィルスは生物なのか？」をテーマとして出張授業を行いました。

「生物としての3つの要素」から始まり、ウィルスが一体どのようなものであるのかといった話や、ウィルスの歴史は感染症の歴史でもあるといった内容、ときにはニワトリが先か卵が先か？といったくだけた内容についても高校生向けにわかりやすく説明してくださいました。参加した約30名の生徒は今後の勉強や進路選択について深く考えさせられたようでした。先生に紹介して頂いた本にも興味がわいたようで、新たな学びが生まれることを期待しています。お忙しい中、ありがとうございました。



<生徒の感想から>

○ウィルスの歴史はとても長く、ワクチンや病原性の話など、とても興味深かった。もっと細かく学んでみたいと思った。講義を受けるまではウィルスと細菌の違いはあまりよくわからなかったけれど、今日の授業でその境界は曖昧だと分かった。

○癌には以前から興味があって、その病原体は何なのか、どうして人間は癌でよく死んでしまうのか知りたい。ウィルスの話から癌や妊娠にまで話が膨らんで、でもそれらには関連性があるのは凄いと思った。ウィルスは今までインフルエンザとかエボラウィルスしかイメージがなかったので、その細かい部分も知れてよかった。

○生物にとって良いのか悪いのか漠然と考えていたけれど、いろいろな方向から見れば定義が難しいとわかった。

○授業の中で私は、ウィルスの歴史やウィルスを殺すための抗体についてもっと勉強してみたいと感じた。授業の中でもあまり触れられていなかったウィルスの起源(どこから生まれたのかどのようにして生まれたのか)や、どのような形で人間にまで伝染してきたのかということを知りたいと思った。

○私は教科の中でも化学や生物が好きで、ニュースで流れる感染症などには関心を持っていて、ある程度は知っているつもりだったけれど、今回の講演を聞いて「感染力」は自分が思っているものとは違うことがわかったし、伝播力はエボラや HIV が高いと思っていたがその 2 つは直接触れないと感染しないということもわかった。もしこのまま知らなければ身近な感染者がいたら無知から不必要な差別をしてしまったかもしれないと思った。

○私は高校に入って生物の勉強をする中で、生物のことに興味を持ち、気になっていたののでこの授業を受けました。少し難しい部分もありましたが、いろいろなことが知れてさらに興味が湧きました。

○今までのウィルスの研究は感染症によって進んできていたから、マイナスのイメージがあるのではということも知り、プラス面についても知ってみたいと思いました。

○感染症に関しては、ワクチンのはじまりの歴史を聞いて、新しいワクチンなど、今後の発展が気になりました。今回勉強して知りたいと思うことが増えたのでとてもためになりました。

○今回の授業通して自分も様々なことに対してなぜという問いを投げかけてみようと思いました。また先生はある立場から見ればメリットだけでも別の立場から見ればデメリットと言われていたように多面的な視点で物事言っていたのでいつか自分もそのような物事の見方ができるようになりたいなと思いました。